

石島会計メモ



中央区日本橋本石町 4-5-12
友泉本石町ビル 3階
石島公認会計士事務所
(03)3275-1311
発行責任者 石島慎二郎

2019年11月号

年末調整 2019 の留意事項

昨年、大きく変わった申告書

年末調整の時期が近づいてきました。従業員に扶養控除等申告書などを提出してもらうことになるわけですが、配偶者控除の改正による影響などから、昨年大きく様式が変わりました。今回の令和元年年末調整において、申告書様式に昨年ほどの変更はありませんが、留意事項を確認してみましょう。

配偶者控除等申告書は引き続き要注意

本人の所得と配偶者の所得によって受けられる一般の配偶者控除等の金額が0~38万円の範囲内で変わることになりました。それに伴い、前回(平成30年分)の年末調整から、当該控除を受けるためには、「配偶者控除等申告書」を提出することが必要となりました。



この申告書がなかなか難しく、苦戦した方もいるでしょう。しかし、配偶者控除等申告書を間違えると控除額が変わってきてしまいますから、年末調整の計算誤りにつながってしまいます。誤ったまま進めてしまうと後日になって税務署から是正通知が来てしまうおそれがありますので、会社は本人から正しく申告してもらえよう、確認することが重要です。

本人の申告が誤っていたら??

扶養控除等申告書や配偶者控除等申告書は、基本的に本人から正しい内容の申告が行われる前提ですので、会社は提出された申告書に基づいて年末調整を行っていただければお咎めはありません。

ただ、これらの申告書に所得を記載するのですが、提出時期が最終の給与支払前ですから、あくまで見積額で記載することになります。残業代や賞与によって、実際の支給額が見積額よりも大きくなってしまったというケースは起こりえます。

その場合の対応として、申告した本人に申告書を訂正してもらい年末調整します。年末調整後に金額誤りが発覚した場合には、翌年1月中に再年末調整を行います。それでも間に合わなければ本人に確定申告してもらいます。

会社で給与を支払う本人分はまだしも、配偶者の所得について会社で把握することは困難ですから、本人と配偶者の間でしっかりと確認をしてもらうことが大切です。

令和2年分扶養控除等申告書の変更点

年末調整をする際、翌年分の扶養控除等申告書を提出してもらうことがほとんどかと思えます。今回の場合であれば、令和2年分の扶養控除等申告書を出してもらいます。令和2年分の扶養控除等申告書では、最下部に「単身児童扶養者」の欄が追加されているのが特徴です。

単身児童扶養者	<input type="checkbox"/> 該当する場合には左記にチェックを付けてください。	児童扶養手当 証書の番号	生計を一にする 児童の氏名	左全所 の2の 児童の の額	異動月 及び日 由
---------	---	-----------------	------------------	-------------------------	-----------------

単身児童扶養者は、婚姻しておらず児童扶養手当の支給を受けている父母で所得額が一定額よりも少ないなどの要件を満たした場合に、住民税が非課税となるものです。該当する場合にはチェックを入れ、必要事項を記載する必要があります。

来年はまた大きな変更あり

今回の年末調整においては、前述のとおり昨年ほど大きな変更はありませんが、来年（令和2年分）においては変更点が多くなります。

ひとつが給与所得控除額（給与額から経費相当として差し引くことができる金額）が縮小されることです。現状は給与収入が1,000万円超の場合には220万円が上限となりますが、これが850万円超の場合に195万円が上限となります。対象者が増えるうえ、控除額も縮小されてしまいます。

このほか、基礎控除額が10万円引き上げられる一方、合計所得金額が2,400万円を超えてくると基礎控除が引き下げられ、「基礎控除申告書」が新設されるなどの変更が多くあります。

これらの変更についても石島会計メモではフォローしていく予定ですので、乞うご期待です。



(文章 石島慎二郎)



七宝焼を制作してきました

文章 市村渚

ちょっと遅めの芸術の秋！ということで(?)七宝焼の制作体験をしてきました。元々、絵を描くことやものを作ることは好きなのですが、突然、本格的に芸術に目覚めたというわけではなく…友達が美術の学校で絵の講師をしていて、その学校で一緒に講師の方が七宝焼の教室をされているというのでついて行ってみました。



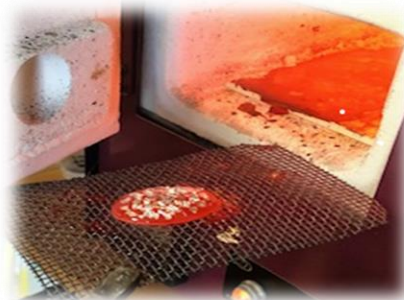
七宝焼とは… (左写真は先生の作品です)

七宝焼は、金・銀・銅などの金属にガラス質の釉薬(ゆうやく)を用いて高温で焼く金属工芸品で、伝統工芸技法の1つです。七宝焼の名称は、**金・銀・真珠・瑪瑙(めのう)・瑠璃・シャコ・マイエ**など、7つの珠玉(七宝)をちりばめたような美しさに由来していると言われています。勲章や車のエンブレムにも使用されていることが多いので、目にしたことがあるかもしれません。

銅板や銀板などの金属板の上に、釉薬(右写真)を盛り、**800℃~900℃**の高温の炉で焼いて作られます。焼く時間は数分で、炉から取り出すと、釉薬が溶け、表面がきれいなガラス状の膜を張り、色鮮やかな光沢が生まれます。



まずは銅板をスポンジで拭いて油分をとります。それから、地の色である黒の釉薬を全体に広げ、銀箔を乗せて一度焼きます。**800℃**の高温で焼くので炉から出してしまうと**真っ赤**ですが、冷めると**真っ黒**に変化します。



ここから銀箔の上に乗せていく釉薬の色を選びます。釉薬の色は透明・半透明などを基本として、50種類以上ありました。たくさんあって、とても迷いましたが、同系色でグラデーションを作りたいのと、海が好きなので、マリンスブルーやアクアマリンなどの青系、エメラルドグリーンや翡翠などの緑系を中心に7色を選んで、構成することにしました。



選んだら、銀箔の上に色のついた釉薬を乗せ、さらにフリットと呼ばれる溶けない粒を乗せて、もう一度焼きます。小窓から焼き上がりの様子を見ながら、1分程度焼いた後、炉から出します。出てすぐは、やはり真っ赤で出来上がりがどのようなものかはわからず、ドキドキしながら冷めるのを待ちます。



完成したものが左写真です。グラデーションが綺麗に出て銀箔とも合って、フリットもうまくきいているとお褒めの言葉をいただきました！！

先生によると、性格が出るそうで、大雑把な人は、はみ出しても気にしなかったり、色やフリットも迷わずどんどん乗せていくそうです。私は、銀箔を置くのも、色を乗せるのも少しずつやっていたので、丁寧だったから色も綺麗に乗ったと言ってくれました。私の場合、性格が慎重でおしとやかだということだとしっかり受け止めました。(前文に関する周囲からの反対意見は一切受け付けないことにします)

今回教えてくださった先生は、老人ホームや小学校でも教えることがあるそうで、馴染みは薄いかもしれませんが、老若男女問わず、楽しめるそうです。

また、高度な技術が必要とされる技法でなければ、家庭用の小さな炉と釉薬を購入すれば初心者でも楽しめるそうです。とはいえ、炉を購入するのも、なかなかの勇気があることなので、まずは、体験してみるのがいいかもしれません。難しいことを考えず、ただ1つのことに没頭できる時間は、日常生活の中ではあまりないと感じます。普段、頭を使いすぎている皆様！ぜひ、おすすめ致します！！

七宝焼は、触れる機会がないものなので、今回は貴重な体験ができました。七宝焼を作っている方が年々少なくなっているそうなので、体験ができる場所は、多くはないかもしれませんが、もしお近くにあったら行ってみてください。

私は、修行不足のため、炉を購入しよう！という気持ちにはまだ至りませんが、今回制作したものを大切にして、これを機に日本の伝統のすばらしさを再発見したいと思いました。